

# 果樹カメムシ情報第4号

平成28年8月1日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

果樹カメムシ類はヒノキ林からの離脱開始時期を迎えています。  
7月下旬のヒノキ球果における成虫発生量はやや多いため、  
8月はほ場への飛来に注意してください。

## 1 フェロモントラップ、予察灯における誘殺状況等

- (1) フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は、スギ林やヒノキ林が多い新城市で7月第5半旬に大きく減少しました。豊田市や豊川市においても7月第2半旬以降少ない状況が続いています(図1)。
- (2) 豊橋市の予察灯における誘殺数は、チャバネアオカメムシは7月第2半旬以降、ツヤアオカメムシは6月第4半旬以降やや少ない状況で推移しています(図2)。
- (3) 7月下旬現在、果樹園では、果樹カメムシ類のまとまった飛来は確認されていません。

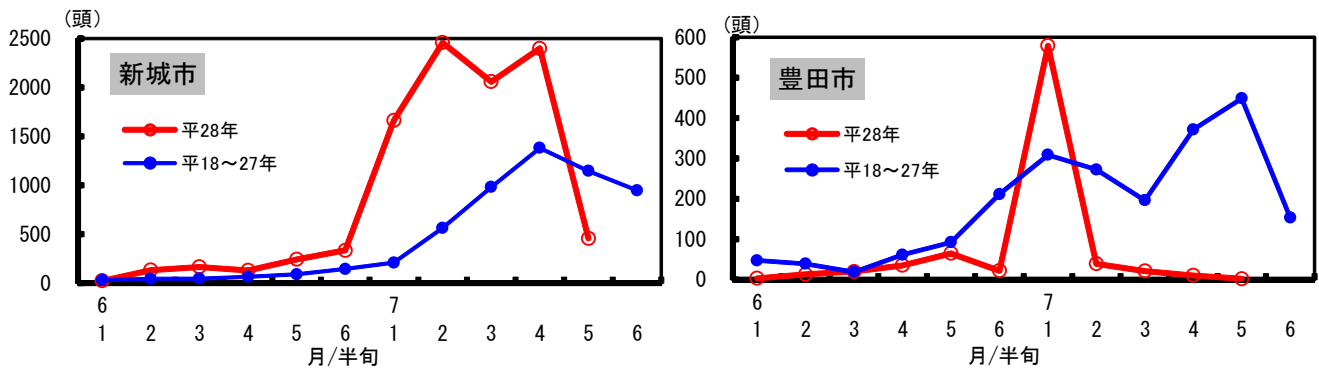


図1 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況

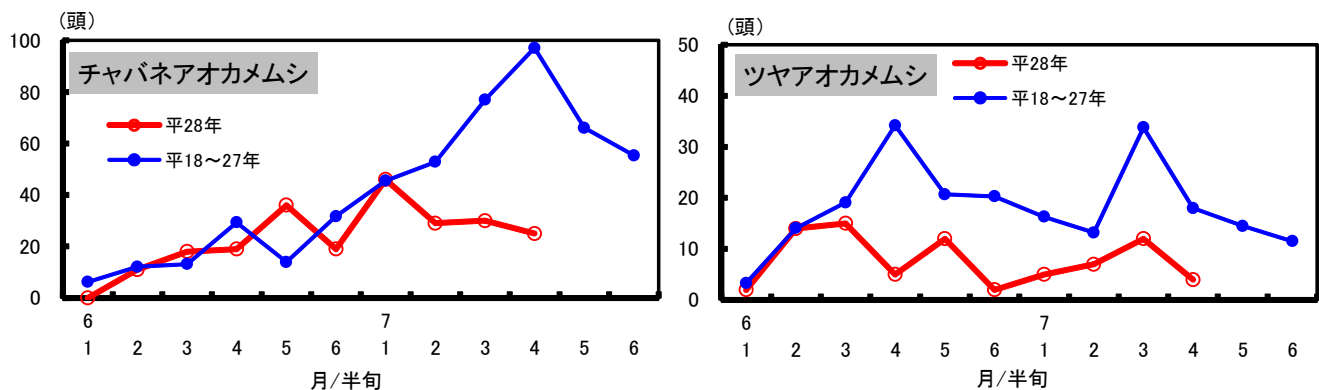


図2 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(豊橋市)

## 2 ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシ生息状況

7月下旬に行ったヒノキ球果のビーティング調査では、県内調査地点(6地点)全てで成虫を確認しましたが、幼虫の生息は3地点のみの確認でした。ヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの生息頭数は、成虫が0.63頭(平年0.21頭)、幼虫は0.22頭(平年0.27頭)で成虫は平年よりやや多く、幼虫は平年並の状況です(図3)。

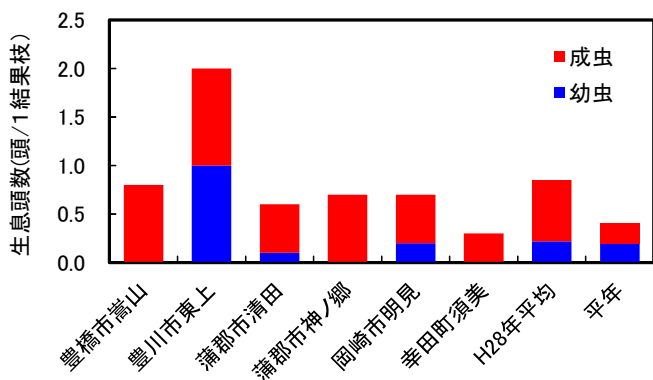


図3 ヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息頭数

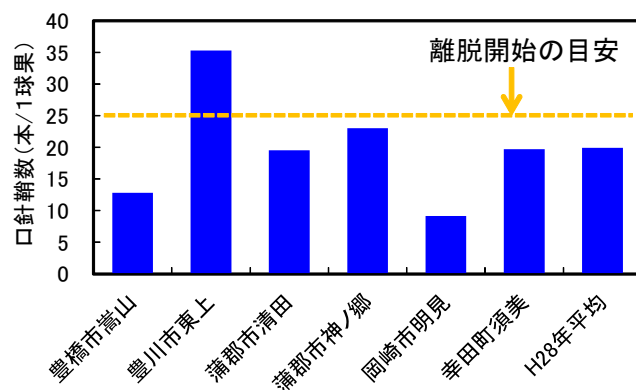


図4 ヒノキ球果における口針鞘数(7月下旬)

## 3 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の口針鞘数から予測した離脱開始時期

ヒノキ1球果あたりの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果が餌として不適となるため、果樹カメムシ類はヒノキ林から離脱し、餌を求めて果樹園へ飛来してきます。7月下旬の口針鞘数から予測した離脱開始時期は、豊橋市嵩山、岡崎市明見では8月上中旬ですが、その他の地点ではすでに離脱を開始していると推定します(図4)。

## 4 今後の発生予測と対応

- (1) ヒノキ球果における7月下旬の成虫発生量はやや多く、多くの地点でヒノキ球果からの離脱時期を迎えているため、8月の果樹園への飛来量はやや多くなると予測します。
- (2) 中山間部に近い果樹園や例年飛来量が多いほ場では、発生状況に十分に注意し、飛来を確認したら表を参考に防除しましょう。

表 果樹カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	系統	使用時期	希釈倍数	使用回数
ナシ	アドマイヤー水和剤	A	収穫3日前まで	1000倍	2回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫前日まで	3000~6000倍	2回以内
ブドウ	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	ダントツ水溶剤	A	収穫前日まで	2000~4000倍	3回以内
カキ	MR. ジョーカー水和剤	B	収穫14日前まで	2000倍	2回以内
	アドマイヤー水和剤	A	収穫7日前まで	1000倍	3回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫3日前まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫3日前まで	3000~6000倍	2回以内
	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内

注) 系統の「A」はネオニコチノイド剤、「B」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。